

実習テーマ	外部環境応答性化合物の生体におけるイメージングと構造変化の確認
実習場所	放射線医学総合研究所 分子イメージング診断治療研究部（千葉・稲毛）
所属・学年	九州大学大学院薬学府創薬科学専攻修士2年
実習期間	2016年8月1日（月）～8日（月）

●QST サマースクールに参加しようと思ったのはなぜですか？

私は温度応答的な集合化挙動を示すイメージング分子の開発を行っています。私が参加した「外部環境応答性化合物の生体におけるイメージングと構造変化の確認」というテーマは外部環境を利用して分子を生体内の特定部位に集める事を目的としたテーマです。本テーマの下で、外部環境を利用したイメージング手法を学ぶと共に合成した温度応答性化合物へと応用する事で自分の研究テーマをより発展させられるのではないかと思います参加を希望しました。

●どんな実習をしましたか？

自分の合成した温度応答性化合物を用い、マウスに化合物を投与の後、温度によって特定の部位へと集積させる実験を行いました。化合物の集積の有無について蛍光観察やMRIによって検討することで、外部環境を利用したイメージングについて評価を行いました。

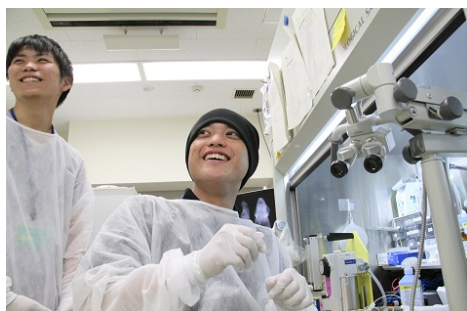
●一番印象に残ったことは何ですか？

マウス生体内での自分の化合物の挙動を蛍光観察やMRIにより画像として確認することができた事が一番印象に残っています。また今回の *in vivo*（生体内）での検討を通して、*in vitro*（生体外）と *in vivo*での化合物の振る舞いの違いについて強く実感し考察する事ができました。

●代表的な1日

09:00	開始
09:00～12:00	研究グループの方々と1日の実験の流れについて打ち合わせを行い、午前中の実験を開始。
12:00～13:00	研究グループの方々と施設内にある食堂にて昼食。時間のある時は外のお店に食べに行くこともありました。
13:00～17:00	午後の実験及び、実験データのまとめと考察を行い、翌日の実験内容についてディスカッション
17:00	終了

●実習の様子



荒木さん（右）



研究者（左）の指導の下、実験



研究者（左）ともう1人の実習生と計測結果の確認